

令和3年度 丹波縄文の森塾11日目(3月19日)

令和4年3月19日(土)、最終日となる縄文の森塾を開催しました。

まずはシューベルト花壇の植栽です。シューベルト花壇は、兵庫丹波の森協会とオーストリアのウィーン市13区の友好親善提携20周年の記念として玄関前に作られたものですが、そこに飾るプランターにゼラニウムの花を植えました。プランターは、一年間様々な体験を指導いただいた自然体験活動サポーターの杉本さんが、「金明孟宗竹」という大変珍しい竹を使って制作したもので、黄金色の美しい縦縞が入っています。そこに色とりどりのゼラニウムを植え、花壇の中に飾り付けました。

続いて、森塾参加の記念にナツツバキ、シラカバ、タラヨウ、ウラジロガシ、クロガネモチの5本の苗木を各班1本ずつ植樹しました。まず穴に赤玉土、腐葉土、培養土を入れて混ぜ、そこに苗木を植えました。これから塾生の成長とともに苗木が立派に生長してくれることでしょう。

次に、シイタケ狩りを体験しました。森塾では、毎年、シイタケの原木づくりを行う中でノコギリの使い方を学んでいます。今年度も伐採したクヌギなどの木の枝をはらい、幹を1メートル程の長さに切るまでの体験をしましたが、残念ながら2月に予定していたシイタケ菌の植菌だけは新型コロナ感染拡大の影響で実施出来ませんでした。この日は、昨年度までの塾生が作った原木から生えたシイタケを収穫しました。「又ル又ルしてて触りたくない!」と最初は恐る恐る手を伸ばす塾生もありましたが、すぐに慣れてみんなで楽しくシイタケ狩りを体験しました。

その後、閉塾式を行いました。坂本副塾長の挨拶の後、塾生一人ひとりがこの塾で学んだこと、感じたことなどについて発表しました。「ツリーイングで木の高いところまで登れて楽しかった。」「学校では出来ない体験ができて楽しかった。」「新しい友達ができて嬉しかった。」等々、色んな感想を聞かせてくれました。また、一年間塾生の活動を見守り、指導いただいたサポーターからも、塾生に贈る言葉をいただきました。そして1班班長の坂本 理桜さんが、塾生を代表して修了証書を受け取りました。

閉塾式の後には、卒塾の記念として杉本サポーターから金明孟宗竹で作った鉢に、ゼラニウムを植えた花のプレゼントがありました。

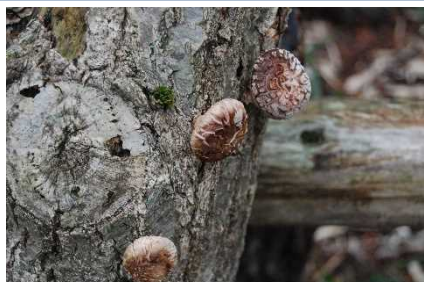
塾生の皆さんには、この塾で学んだことを生かし、これからも様々なことに挑戦し元気で活躍されることを期待しています。そして、また丹波の森公苑の里山で会える日を楽しみにしています。



シューベルト花壇の植栽



記念植樹



シイタケ狩り



開 塾 式